

妙安寺だより 324

テレフォン法話 092-751-6084 (毎週月曜日に話が変わります)

〔お盆の始まり (前) 〕

お釈迦さまの十大弟子の一人に神通力第一といわれた、目連尊者がいました。神通力とは、遠い昔のことや、未来のこと、人の心の中、亡くなった方が今どうしているのかなど、普通の人では見ることのできない世界を、見るができるという不思議な力のことです。

目連尊者の母親は、利己的で貪欲のため周囲の皆から嫌われていました。尊い教えを説く、お釈迦さまを「自分の生き方と反対の教えを説かれる」といって、たいそう憎んでいました。

目連尊者は、日々の生活に疑問を持ち、苦しみ悩んでいました。

この苦しみ悩みから離れた悟りの世界を求め、お釈迦さまの弟子になると決心した時、母親は驚き猛反対をし、深く嘆き悲しみながら亡くなりました。

目連尊者は、心の優しい人で、とりわけ亡くなった母親のことが忘れられず、自分を育ててくれた恩に感謝していました。

ある日、目連尊者は美しく優しかった母親を思い出し、今、どうしているのか、神通力を発揮して、母親の姿を見ることにしました。

最初に極楽浄土を探しましたが見当たりませんでした。そこで、天上界を見てもいません。おそるおそる地獄の方を見てみると、餓鬼道にち苦しんでいる母親の姿が見えました。

餓鬼道とは、どんなにおなかすいていても、食べ物を食べることも、カラカラにがいていても、水で喉をすこともできない苦しみの世界です。

目連尊者は、母親が、なぜ餓鬼道に堕ちなければならなかったのか、神通力をもって、その理由を知ろうとしました。そこには生前、目連尊者が知らなかった母親の一面があったのです。目連尊者にとっては、優しい母親でしたが、他人に対しては、むごい仕打ちを平気でする人だったのです。餓鬼界に堕ちた母親や、まわり人々は、骨と皮とに痩せ衰え、ふた目と見られぬ姿でした。

目連尊者は驚き、泣き叫びながら、母親のところに駆けつけ、食べ物や水を口もとに運びましたが、たちまち炎となって燃え上がり、食べたり呑んだりすることができませんでした。

これを見て悲しんだ目連尊者は、何とかして母親を救うことができないものかと、お釈迦さまに助けを求めました。

お法要の案内

「お盆」とは「」というのが正式の名称です。この「盂蘭盆」とは、インドの「ウランバーナ」という古い言葉()を、中国で漢訳されたもので、「足を縛られ、逆さに吊るされ、地獄に墮ちる苦しみ」という意味から、「」と訳されました。これが、日本に伝えられ「お盆」と呼ぶようになり、「苦しみを取り除く」という言う意味です。

「盂蘭盆会」の教えは、中国に伝えられ、やがて日本にも伝えられました。
中国では、の時代(538年頃)同泰寺というお寺で修されたとされています。

日本で、お盆の行事が行なわれたのは、天皇の時代(657年)で、659年には「盂蘭盆をし、七生の父母に報ぜしむ」との記録も残っています。

8月18日(木曜日)

正 午より お (昼食の準備をしております)

午後1時より 盂蘭盆会お施餓鬼法要

午後2時 法 話

※卒塔婆供養ご希望の方は、別紙「卒塔婆申込書」にて早めにお申し込みください。

FAXにても申し込みできます。(FAX番号 092-751-4055)

お盆読誦回向は、住職が下記の時間に行ないます。

8月13日(土曜日)	午前11時	午後2時
8月14日(日曜日)	午前11時	午後2時
8月15日(月曜日)	午前11時	午後4時

お盆回向(棚経)は、副住職がお伺いいたします。

※毎年、時間の問い合わせがありますが、お伺いする順路や交通事情などにより、お伺いする時間はわかりませんのでご了承ください。